

2025

Annual Report

年次報告書



認定NPO法人
バディチーム

誰もが互いに支え合い みんなで子育て



ビジョン

子どもも大人も誰もが互いに支え合い
みんなで子育てすることで
子どもがすこやかに育つ社会

… 込められた想い …

- ・ 子どもも大人も誰もが互いに支え合い

親も子も、子育てパートナーも事務局員も、行政や施設の職員も、子どものいる人もいない人も、誰かがみな誰かに支えられて生きているということ。

- ・ みんなで子育てすることで

この世に生まれてきた子どもは、親だけでなく社会の全員参加で育てるのだということ。

- ・ 子どもがすこやかに育つ社会

全員参加の支え合いの中で、子どもが心身健康に成長できる社会であるということ。

ビジョン実現のための行動指針

ミッション

子育てが大変になっているご家庭へ

バディチームは

子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ
あなたがあなたらしく生きられるように
その歩みを支えます。

… 込められた想い …

- ・ 子育てが大変になっているご家庭へ

バディチームは誰のために活動するのか？子どものためだけではなく、親のためだけでもない、その両方を含んだ「家庭」のために行動するのだということ。

そしてそれはいわゆる「養育困難家庭」だけではなく、さまざまな背景や事情を抱えた家庭であるということ。

- ・ 子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ

子どもも親も、安心し、笑顔で、がんばりすぎず、未来に希望を感じてほしいということ。

- ・ あなたがあなたらしく生きられるように

子どもは子どもの、親は親の、自ら選んだあり方で自分らしく生きてほしいということ。

- ・ その歩みを支えます

「正しい」道へ導くのではなく、ただその場に寄り添うだけでもなく、

子どもが、親が、自分のペースで前に進んでいけるように、ともに歩むということ。

もくじ

ビジョン・ミッション	2
ごあいさつ	4
2025年度のバディチーム	5
行政との協働による事業	6
困難な状況にある家庭への訪問支援事業	6
食の支援事業	7
里親家庭支援事業 / トワイライトステイ事業	8
スタッフによるふりかえり part.1	9
自主または民間機関との連携による事業	10
中間支援活動	10
「制度の狭間」にある家庭に対する支援活動	11
民間助成金を活用したその他の取組み	12
スタッフによるふりかえり part.2	14
講演等による普及啓発活動	15
ネットワーク・政策提言活動	17
ご寄付・ご支援	18
会計報告	20
沿革	21



2025年度も、子育てパートナーの皆さま、寄付者の皆さま、会員の皆さま、そして日頃より温かく応援してくださる多くの皆さまのお力添えにより、無事に活動を継続することができました。心より感謝を申し上げます。

今年度も、児童相談所や子ども家庭支援センターなどの行政機関、フォスタリング機関などから受託している事業に加え、子ども食堂やフードバンクなど地域の民間団体と連携した自主事業、さらに2年目を迎えた「ばうむ」の居場所関連事業など、多様な活動に取り組んでまいりました。

必要性に迫られて活動の幅は年々広がっていますが、新たな取り組みについては試行錯誤の連続でもあり、一歩ずつ経験を積み重ねながら、より良い支援の形を模索しているところでもあります。

また今年度は、活動の意義や支援の内容をより多くの方にわかりやすく伝えることを目的に、初めて「マンガ」の制作に取り組みました。長年バディチームを応援してくださっている方からも「ようやく活動の全体像がよくわかった」というお声をいただき、活動を伝える工夫の大切さも改めて実感した一年となりました。

児童相談所における児童虐待相談対応件数は、依然として20万件を超える高い水準で推移しています。そのような状況の中、こども家庭庁では家庭支援事業の一つである「**子育て世帯訪問支援事業**」の充実を進め、全国の実施自治体の実施率も着実に増え始めています。

バディチームも18年間の実践と複数自治体での受託経験を生かし、同様の活動を担う支援団体とのネットワークを通じて、より良い制度づくりに向けた意見交換や提言活動を続けています。また、制度の枠組みにとどまらず、困難を抱える家庭へ訪問型支援が全国に広がることを目指し、**中間支援事業**を開始しました。子ども食堂や児童養護施設などに向けた説明会も実施し、支援の輪を広げる取り組みを進めています。

現場では、親の心身の不調、親や子の病気や障がい、ひとり親、経済的困窮など、さまざまな事情が複雑に重なり合う家庭と日々向き合っています。そのような日々の中で、今年度の支援者研修では「ネガティブ・ケイパビリティ」をテーマに学びました。

これは、詩人ジョン・キーツが提唱した「不確実なものや、すぐには答えの出ないものを受け止める力」という考え方です。支援の現場では、すべての課題をすぐに解決できるわけではありません。しかし、「**解決できなくても、孤立はさせない**」という伴走支援の姿勢を大切にしながら、不確実さの中でも寄り添い続けることの意味を、改めて確認する機会となりました。

子どもや家庭を取り巻く課題は山積みです。しかしその一方で、私たちにできること、「**みんなで子育てする社会**」でできることは、まだまだ広がっていくと信じています。

これからも、一人でも多くの子どもと家庭が安心して暮らせる社会を目指し、皆さまとともに歩んでまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



認定NPO法人バディチーム
理事長 岡田妙子

支援実績
合計

324家庭／5,160回／11,356時間

(前年 338家庭／11,084時間)

▶ 行政との協働による事業

= (B) =

支援
実績

288家庭／4,713回／10,403時間

(前年 302家庭／10,068時間)

都内14の自治体などから委託を受け、さまざまな事情や背景を抱えた家庭に対する訪問型支援を実施しました。新たな地域での活動も開始し、幅広いニーズに対して、保育・掃除・調理・送迎・学習支援など、多岐にわたる支援を行っています。

→ 詳しくはp6-8

▶ 自主または民間機関との連携による事業

= (B) =

支援
実績

36家庭／447回／953時間

(前年 36家庭／1,016時間)

6つの民間助成金や寄付金を活用し、制度ではカバーしきれない取組みを実施しました。公的支援が届かない「制度の狭間」にある家庭に対して、訪問や小さな居場所「ぼうむ」での支援を実施した他、家庭訪問型支援の担い手を増やすための中間支援活動も開始しました。

→ 詳しくはp10-13

▶ 講演等による普及啓発活動



支援者や関係機関の集まる全国規模のイベントで理事長・岡田がお話をさせていただくなど、支援関係者むけに家庭訪問型支援の意義や課題について発信を行った他、里親制度の普及啓発のための街頭活動にも取り組みました。

→ 詳しくはp15-16

▶ ネットワーク・政策提言活動



こども・子育て訪問ネット（ここほネット）の世話人団体として、実践者どうしでの学び合いの場づくりを行い、こども家庭庁に対して提言を行いました。

→ 詳しくはp17



困難な状況にある家庭への訪問支援事業

支援
実績

198家庭／3,448回／6,711時間

(前年 217家庭／6,733時間)

対象家庭 親の心身の不調や産後うつ、子どもの病気や障がい、ひとり親、経済的困窮、など

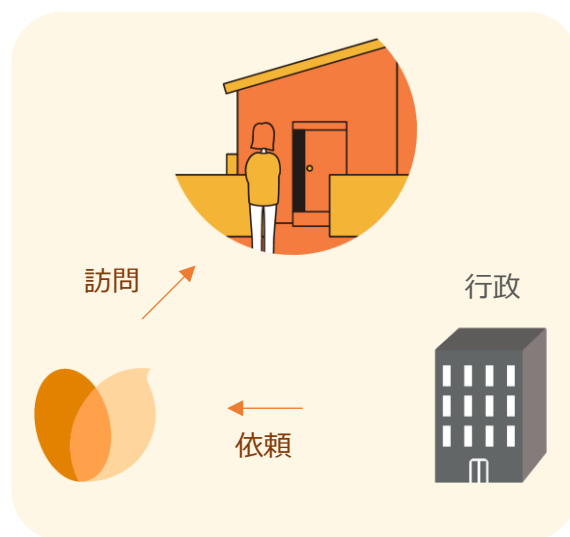
支援内容 掃除、調理、子どもの送迎、遊び相手、学習支援、相談相手、沐浴介助、など

子育て世帯訪問支援事業（養育支援訪問事業）

活動地域 足立区・荒川区・大田区・葛飾区・北区・品川区・新宿区
世田谷区・中央区・練馬区・文京区・目黒区・港区

国や自治体の虐待予防対策の一環として位置づけられ、バディチームの活動の最初期から取り組んできた「養育支援訪問事業（育児・家事援助）」は、2024年4月から「子育て世帯訪問支援事業」へ移行しました。**2025年度は新たに品川区からの委託を受け、都内13区で実施しました。**支援が必要となる家庭の抱える事情は、親の心身の不調や産後うつ、子どもの病気や障がい、ひとり親世帯、経済的困窮など、さまざまです。保健師などの家庭訪問や乳幼児健診、または保育所・幼稚園・学校でのようすなど、関係機関からの情報提供によって把握され、行政からの依頼により支援が始まります。

訪問する現場支援者は必ずしも資格を持った専門職ではありませんが、具体的なお手伝い（家事・保育・送迎など）を通じて、子育ての負担を軽減しつつ、親や子どもと信頼関係を築き、家庭の孤立を防ぎます。



こども・子育て訪問ネット（ここほネット）
家庭訪問型子育て支援 実践交流学習会 第2回

2026.2.2 月 16:00 - 18:00

子育て世帯訪問支援事業 Part.1 多様な実践ケーススタディ

ゲスト

山本 博子 NPO法人Mama's Cafe 理事長（岐阜県）

武樋 保恵 社会福祉法人みその児童福祉会
児童家庭支援センター高知みそのセンター長（高知県）



制度がよりよく実施されるため、こども・子育て訪問ネット（ここほネット）の世話人団体として実践者どうしの学び合いの場づくりにも取り組んでいます。

→ 詳しくはp17

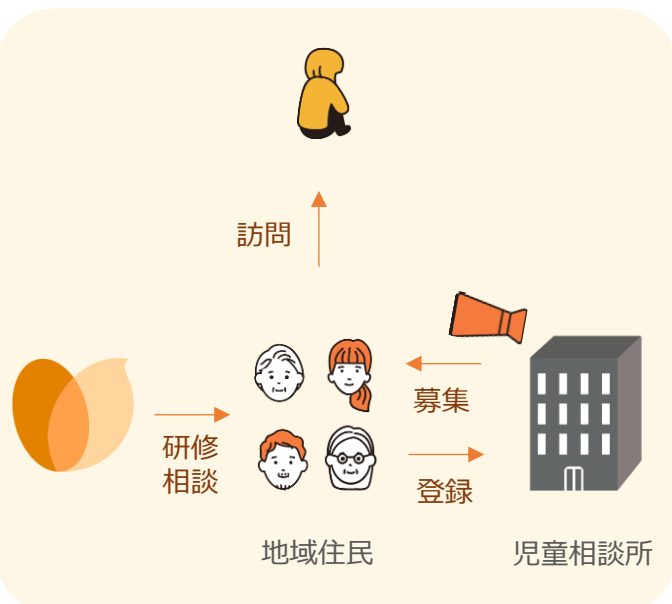
子どもと家庭のおとなりさん事業

活動地域 江戸川区

江戸川区においては、児童相談所と連携し、さまざまな困難を抱える家庭に対して支援を行う「子どもと家庭のおとなりさん事業」を受託実施しています。

沐浴の補助や離乳食調理、子どもとの遊び、学習の見守り、掃除、洗濯など、対象となるお子さんの年齢も支援内容も多岐にわたり、家庭の抱える事情や背景も実に多様です。

現場の最前線に立つ支援員は、区の呼びかけに応じて集まった20代～70代の地域住民の方々です。必ずしも資格や経験があるわけではありませんが、事務局のコーディネーターが丁寧に伴走しながら、いっしょに親子を支えています。



食の支援事業

支援
実績

59家庭／1,091回／3,267時間

(前年 52家庭／2,897時間)

対象家庭 多子世帯、ひとり親、外国籍、病気、障がい、子どもの偏食、など

支援内容 買い物・調理

▶ 食事支援ボランティア派遣事業（おうち食堂）

活動地域 江戸川区

▶ 食の支援サポーター派遣事業（おうちDEぽかぽかクッキング）

活動地域 世田谷区



「食」は子どもが成長する上で必要不可欠な大切なもの。子ども食堂の取組みが広がっていますが、そうした場所に出かけいくことも難しい家庭があります。そんな家庭に向けて、支援者が家庭を訪問し食事を作る支援を江戸川区と世田谷区で受託実施しています。

実際に訪問してみると「食」に課題があると思われた家庭に、その他の様々な困難が複雑に絡み合っていることがわかります。家庭の中だけでは解決の糸口が見えないことを、行政と連携し、新たな支援へつなぐ役割も果たしています。調理を担当するのは、同じ地域に住む20代～70代の子育て支援に理解と熱意のある方たちです。自治体の呼びかけにより、100名を超える方が集まっています。必ずしも資格や経験があるわけではありませんが、事務局のコーディネーターが丁寧に伴走しながら、いっしょに親子を支えています。

利用家庭の声



「支援員さんが応援してくれたので、これからは教えてもらったやり方やレシピで私も子どもたちに作っていききたいと思います」



「誰かにご飯を作ってもらうなんて何年ぶりだろうと…、嬉しかったです」

支援員さんの声

活動
していて
よかった

「訪問に慣れてくれたのか、そばに立っていろいろな話をしてくれるようになりました」
「ご家庭と一緒に楽しく料理ができて、思い出がいっぱいです」

おうち食堂
メニュー集
2026



ボランティアさんが作ってくれた
素敵なメニューたち

江戸川区で受託実施する「おうち食堂」事業では、毎年メニュー集を発行しています。支援員のみなさんが、旬の野菜を使ったり、巻いたり、揚げたり、カットしたり…、子どもたちが食に関心を持つように様々な工夫を凝らして作ってくれた、愛情と知恵の詰まったレシピ集です。



里親家庭支援事業

支援実績

30家庭／167回／406時間

(前年 32家庭／438時間)

対象家庭 里親家庭

支援内容 子どもの送迎、遊び相手、掃除、調理、など

▶ 東京都フォスタリング機関事業（育児家事援助者派遣）

活動地域 児童相談センター・北児童相談所・足立児童相談所 管轄地域（8区）

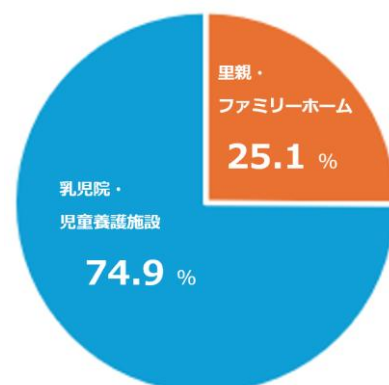
▶ 里親支援のための育児家事援助者派遣事業

活動地域 世田谷区

▶ さとおや・おたすけ事業

活動地域 江戸川区

里親等委託率（R5年度末）



※児童心理治療施設・児童自立支援施設等を除いた割合

虐待やさまざまな事情により生みの親のもとを離れて暮らす「社会的養護」の子どもたちは全国に約42,000人。このうち里親家庭・ファミリーホームに委託されているのは約2割にとどまっており(R5年度末)、国際比較で日本は大きく後れを取っています。

「施設養育」から「家庭養育」への流れを推進するために国は数値目標を掲げて里親を増やすことを都道府県に求めています。が、「里親を増やす」と同時に、「里親を支える」ことが必要であるという立場から、バディチームでは里親家庭に対して訪問型の支援を行っています。2025年度は計10区を担当して事業を実施しました。

東京都における担当地域の減少に伴い委託事業の実績は減少傾向ですが、民間助成金を活用した「制度の狭間」への支援の強化と併せて、非専門職の地域住民も参画した形で里親子を地域で支える取り組みがもっと広がるよう、活動を続けていきます。

トワイライトステイ事業

活動地域 新宿区

支援実績 1家庭／7回



経済的困窮、病気や障がい、心身の不調など、さまざまな事情をもつ要支援家庭においては、子ども食堂など不特定多数の人が集まる場所を利用することに難しさを抱える家庭も多くあります。2024年6月から、そうした家庭に対してマンツーマンあるいは少人数で過ごす「小さな居場所」で親子に寄り添う支援を実施しています。

新宿区からトワイライトステイ事業を受託し、地域の「協力家庭」として夕方から夜の時間帯にお子さんをお預かりして、いっしょに夕食を食べたり、遊んだり、安心して過ごせる居場所づくりを行っています。

まだ手探りで小規模な実施となっていますが、人も場所もゆっくりと成長していけるよう、活動を続けていきます。

小さな居場所「ばうむ」

トワイライトステイ事業は、小さな居場所拠点「ばうむ」で実施しています。その名前にはドイツ語のbaum（樹木）と「場所を生む（場生む）」の2つの意味があります。子どもも大人も少しずつ、年輪を重ねる樹木のように育っていく。ここはそんな人たちの居場所でありたい。「ばうむ」にはそんな願いが込められています。



今年度もたくさんの親子に出会いました。

すべて大切な時間であったことはもちろんですが、中でもとくに印象に残った支援をふりかえります。



どんな家庭？

母／子2人（小学生）
▷ 母は精神疾患あり
▷ 室内に衣類が山積み生活空間を圧迫

支援内容は？

母と一緒に室内の片付け

どんな変化がありましたか？

当初、母が物を捨てることに強い拒否感を持っていましたが、子育てパートナーが「捨てたくないなら捨てなくてもいい」と寄り添うことで安心感が生まれ、信頼関係が築かれました。徐々に母自身が「子どもの生活スペースを確保したい」と希望するようになり、少しずつ前向きに取り組むことができるようになりました。

印象に残った理由？

実際の片付けの状況自体は大きな改善には至らず、難しさを感じる場面もありました。中でも、母の心理状態や子どもの成長について行政の担当者とも密に相談・連携し、**母と一歩ずつ歩みを進められたこと**には、意義を感じています。



どんな家庭？

父／母／子1人（小学生）
▷ 子是不登校・引きこもり
▷ 母は子についての悩みから子との喧嘩が絶えず

支援内容は？

子と一緒に調理
母の話し相手

どんな変化がありましたか？

子育てパートナーとの関わりの中で、母が子との煮詰まった関係や距離感に気づき、少しずつ母自身の時間を楽しむようになりました。子は支援開始から半年ほどで友だちと出かけることができ、1年が経つころには放課後登校や保健室登校ができるまでになりました。

印象に残った理由？

子が料理に関心を持っていたことから、基本的に子と一緒に調理を行う支援でしたが、子の気分が乗らない日は母の話聴きながら調理を行いました。悩みや愚痴、過去の病気などについても話してくれるようになり、「**この子が他の人に褒められるのを見るのがとても嬉しくて、おかげで家庭内が明るくなりました**」と話してくれ、「母が変わることで子が変わる」ことを実感しました。



どんな家庭？

父／母／子1人（乳児）
▷ 母の望まぬ妊娠出産
▷ 父は発達特性あり

支援内容は？

授乳、沐浴、子の見守り

どんな変化がありましたか？

育児への関心がなく育児に関する知識・情報も不足しており、安全を確保するため出産後は産後ケアや保健師による訪問などとも合わせて、毎日なんらかの目が届くよう見守りを行いました。結果、半年間の支援終了時にはご自身たちの手で問題なく育児ができるようになり、子への愛情が芽生えてきました。

印象に残った理由？

当初は生まれたばかりの子の安全が危ぶまれましたが、関係機関によるさまざまな支援で、育児の技術だけでなく愛情も育まれていきました。子育てに対する拒否感の背景にあったのは**愛情の欠如ではなく、知識不足と自信のなさ**であったと感じられました。



どんな家庭？

父／母／子2人（中学生・小学生）
▷ 父は精神疾患あり／母も精神不調
▷ 長子に発達特性あり

支援内容は？

学習支援
遊び相手

どんな変化がありましたか？

支援員が末子と遊んだり宿題の見守りを行い、末子は自分だけに向き合ってくれる子育てパートナーの訪問を心待ちにして、思いっきり楽しんでいました。徐々に母が長子に対して余裕をもって関われるようになったり、家事ができるようになったりするうち、母・長子とも精神的に安定したようすが見られるようになりました。

印象に残った理由？

当初、母と長子の関係性が課題に見られていましたが、そこに直接的に関わっていくのではなく、末子と遊び、その楽しそうにしている様子を見ることによって、**間接的に母と長子の関係性にも変化が現れた**のが印象的でした。

中間支援活動

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

助成機関 公益財団法人日本財団

家庭訪問型支援の担い手を増やすため、中間支援活動を開始しました。潜在的な運営団体を対象に事業運営説明会を実施し、個別相談を経て、実際に2団体の事業立ち上げにつながりました。

▶ 家庭訪問型支援についての事業運営説明会

18回／20団体

事業運営説明会は、家庭訪問型支援事業の立ち上げや拡充に関心のある団体むけに、個別に実施しています。
お気軽にお問い合わせください。

(実施例)

子ども食堂・居場所支援団体・不登校児支援団体・児童養護施設
社会福祉協議会・訪問看護事業所・など

お問い合わせください



▶ 他機関連携を目的とするオンラインイベント

参加 68名 / レポート配布 1,500ヶ所以上



2026年2月28日

「家庭訪問型子育て支援 実践カンファレンス
～「取組のポイント集」を読み解き、もっと親子の近くへ～」

家庭訪問型支援の実践者どうしがつながり、学び合う連携を構築することを目的にオンラインイベントを開催しました。

2024年に新設の「子育て世帯訪問支援事業」の制度設計に関わる調査を率いた株式会社日本総合研究所・今川成樹さんによる「市町村向け取組のポイント集」についての解説の他、全国の実践者の方々と情報交換を行いました。

▼日本総合研究所・今川成樹さん



参加者の声



「他事業所の抱えている問題や課題を共有することができました。問題解決の糸口となる情報もいただくことができて感謝しています」



「全国で、地道に頑張っている方々がいらっしやるのが、うれしく、エンパワメントされました！」



アーカイブ動画はこちら



「制度の狭間」にある家庭に対する支援活動

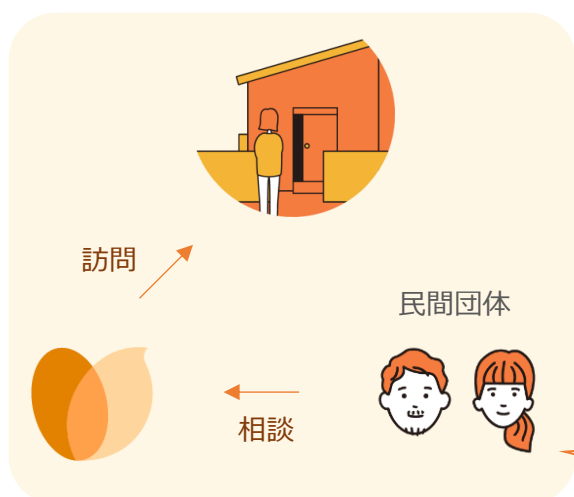
助成機関 公益財団法人CBGMこども財団
公益財団法人東京都福祉保健財団
SMBCグループライジング基金

独立行政法人福祉医療機構
公益財団法人日本財団



支援実績 26家庭／345回／745時間

5つの民間助成金や寄付金を活用し、公的支援が届かない「制度の狭間」にある家庭に対して、訪問や小さな居場所「ぼうむ」での支援を実施しました。



対象／テーマ

学齢期の子ども
中高生
里親家庭
食の支援を行う機関との連携
小さな居場所「ぼうむ」による支援

連携機関

フードバンク、子ども食堂、発達支援機関、居場所支援団体、など

経済的困窮、ひとり親、引きこもり、親の病気、子どもの発達障がい、難病児など、さまざまな背景を抱える家庭に対して、民間団体と連携して支援を実施しました。

公的制度では要件に当てはまらなかったり、支援の量が不足していたり、過去に行政の対応により傷付いた経験があったり、さまざまな理由で支援につながらず「**制度の狭間**」にある家庭が多く存在しています。

そうした家庭に訪問し、保育・家事・送迎・その他、家庭に必要なサポートを行いながら、継続的なかわりを通して家庭の状況を把握し、必要に応じて公的支援や地域の社会資源につながってもらうように支援を行います。

▶ 連携機関をゲストに招いたオンラインイベント

アーカイブ動画はこちら ▼

2025年8月2日

「こども食堂・こども宅食・フードバンクと連携した訪問型食事づくり支援の可能性
～「おうちで食べる」をみんなで支える、親子といっしょに地域が育つ～」

出演

- 川松亮 明星大学人文学部福祉実践学科 教授 (写真左)
- 久保田寿江 認定NPO法人フードバンク渋谷 事務局長 (写真中央)
- 及川信之 NPO法人らいおんはーと 理事長 (写真右)



個人利用家庭への訪問支援

活動地域 東京都内

支援実績 10家庭／102回／208時間

おもに行政の委託事業の支援機関終了後に、さらにサポートを希望する一部の家庭に対して支援を実施しています。同じ現場支援者が長期間、継続して訪問しています。



民間助成金を活用したその他の取組み

▶ 説明会用動画の制作

中間支援活動における事業運営説明会に活用するための動画を制作しました。

バディチームの現場支援者である「子育てパートナー」と、事業の要となる事務局の「コーディネーター」のインタビューで構成し、運営の具体像を伝えています。



▶ 活動紹介動画の制作

バディチームの活動をより広くわかりやすく伝えるための動画を制作しました。

課題背景や、子育てパートナーのインタビュー、支援事例を描いたアニメーションなどを4分35秒に盛り込みました。YouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください！



YouTubeで公開中



▶ 活動紹介マンガの制作

バディチームの支援の具体像をより広くわかりやすく伝えるためのマンガを制作しました。

4つの支援事例についてのストーリーで構成されたマンガのタイトルは『扉の向こう』。

外からは見えない玄関の扉の向こうに入っていく訪問型支援の意義と、親や子どもが心の扉の向こうを少しずつ見せてくれることに寄り添う支援のあり方、2つの意味を込めました。HPで公開していますので、ぜひご覧ください！

『扉の向こう』

- 第1話 「普通」の子育てなんて誰もおしえてくれなかった
- 第2話 子どもが子どもでいられる放課後
- 第3話 怒鳴り声の向こうに
- 第4話 できること1つずつ 子どもの「生きる」を支える

HPで公開中



民間助成金を活用したその他の取組み

▶ 里親家庭に対する訪問型支援の全国実施状況調査

2022年の児童福祉法改正により「里親支援センター」が創設されるなど、里親を「増やす」と同時に「支える」ために国の制度の拡充が進められていますが、バディチームが取組むような里親家庭に対する保育・家事・送迎など具体的な生活援助を伴う訪問型支援は、十分に取上げられていません。

同様の取組みがどの程度実施されているのか、全国の児童相談所・里親支援機関を対象に調査を実施しました。



結果、同様の取組みを実施しているのは**全国の1割～2割程度の地域**ということがわかり、さらに、訪問支援員に資格の要件がない、「非専門職参画型」となっている地域はさらに少ないことがわかりました。

こうした支援が全国に広がるよう、実践者どうしの連携構築や政策提言に取り組んでいきます。

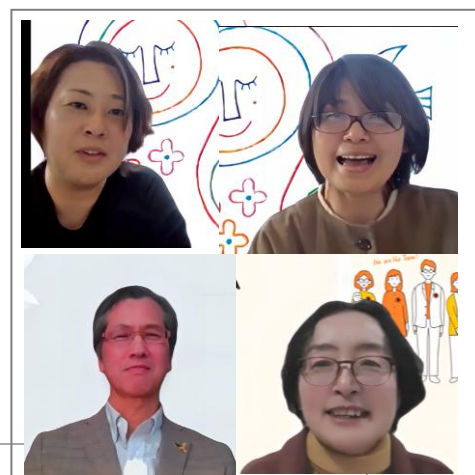
▶ 里親家庭支援者むけオンラインイベント

2026年1月24日
「里親家庭に「子育て支援」は届いているか
～地域住民とともに育む社会的養護の実践報告～」

全国から100名近い支援従事者に参加いただき、名古屋・熊本・東京の取組み事例について学び合いました。

出演

- 里親支援センターほだかの里
竹田祥子（センター長：写真左上）・井上峰子（里親等相談支援員：写真右上）
- 認定NPO法人優里の会
八谷斉（副理事長：写真左下）・りょうこ/たかこ[仮名]（くまもと里親Fikaちょこっと事務局・里親）
- 認定NPO法人バディチーム：
岡田妙子（理事長：写真右下）



アーカイブ動画はこちら ▶



参加者の声



「里親さんが安心して養育できるよう支援したいと、日頃から思うばかりで実践できていなかったことへの取り組む意欲がさらに湧く、とてもよい機会となりました」



「レスパイト利用で足りていると認識していましたが、今日の研修で「ちょっとした負担にちょっとした支援」という使い勝手を考えたとき、当地域にもニーズがあると気づかされました」

今年度もたくさんの親子に出会いました。

すべて大切な時間であったことはもちろんですが、中でもとくに印象に残った支援をふりかえります。



どんな家庭？

母／子2人（幼児）
▷ 母は精神疾患あり

支援内容は？

家族3人分の食事作り

どんな変化がありましたか？

明るい性格の子育てパートナーが、訪問するたびに母の話をよく聞き、たくさんの料理を作ってくれました。当初は鬱々としていた母の表情が徐々に明るくなり、支援期間中に離婚を決め、仕事を探し、将来についても前向きな言葉が聞かれるようになりました。

印象に残った理由？

母の180度といえるほどの変化が印象的で、「私は周りの人がたくさん助けてくれる」という言葉に、強さと頼もしさを感じることができました。



どんな家庭？

母／子1人（小学生）
▷ 母は精神不調
▷ 子は発達特性あり

支援内容は？

調理・子の見守り
室内の片付け・母の相談相手

どんな変化がありましたか？

複数年の長期にわたって支援しています。この間に離婚や転居など状況の変化が続き、母の不調も長期化していましたが、現在は安定したようが見られています。子もかつてはコミュニケーションが苦手でしたが、会話のキャッチボールができるようになり、成長とともに友人関係も変化してきています。

印象に残った理由？

子育てパートナー、事務局、行政が長期間にわたって密に連携し、さまざまな経過をたどってきた中で、子どもが環境に適応し、変わっていく力を見ることができました。**長期の継続的な支援だからこそ実現できること**と感じています。



どんな家庭？

母／子1人（中学生）
▷ 母は精神疾患あり
▷ 母子の関係に課題あり

支援内容は？

食事作り
子への声かけと見守り

どんな変化がありましたか？

当初、母を避けるような対応が見られ支援中も部屋から出てこなかった子が、継続的に挨拶や声かけを行ううちに徐々に顔を出すようになり、やがて子育てパートナーと一緒に調理をするようになりました。最後には母も参加するようになり、二人の時間も楽しそうに会話をして過ごす姿が見られるようになりました。

印象に残った理由？

ほんの少しのきっかけで親子関係に笑顔が戻ったのが印象的でした。何がきっかけで事態が前向きに動き出すかわからない支援の奥深さと、第三者が介入することの価値を実感しました。



どんな家庭？

母／子2人（18歳超）
▷ 母は精神疾患あり
▷ 母子とも引きこもり状態

支援内容は？

学習支援

どんな変化がありましたか？

子は不登校・引きこもりが長期化しており、当初は訪問のキャンセルが続いて、声を出すことも難しい状態でしたが、支援の終盤では予定時間よりも早く準備をし、自ら挨拶をするようになりました。通信制高校の受験を自ら希望し、主体的に取り組むようになった変化に驚かされました。

印象に残った理由？

子の変化は緩やかではありましたが、6ヶ月の支援期間が終了するころには見違えるようになっていました。また、**その変化が家族全体にもよい影響を与えている**ように感じられたことも印象的でした。

▶ 講演

前年に続き、子育て世帯訪問支援事業を始めとした家庭支援事業に関連する全国規模のイベント等で、支援従事者を対象に家庭訪問型支援の実践について講演を行う機会が増えています。

一方で、都内においては地域住民むけに訪問型支援の意義や可能性についての発信も行っています。

お招きいただいた
主催団体

- ・公益財団法人日本財団
 - ・一般社団法人社会的養育地域支援ネットワーク
 - ・早稲田大学 総合研究機構
 - ・認定NPO法人Learning for All
 - ・認定NPO法人優里の会（里親支援センターゆうり）
 - ・NPO法人シブヤ大学
 - ・江戸川総合人生大学（江戸川区）
 - ・新宿NPOネットワーク協議会
- ほか



▲ 2025年9月26日「子どもWEEKEND」

▶ 街頭活動 | 里親制度普及啓発キャンペーン「ONE LOVE」



認定NPO法人日本こども支援協会が、**里親月間である毎年10月**に実施する全国一斉里親制度啓発キャンペーン「ONE LOVE」。
バディチームは2020年から連続6回目となる参加。
10月4日・5日には下北沢で、10月13日には飯田橋と神楽坂で、道行くみなさんにチラシやグッズを配布しました！
それぞれ里親支援機関である里親支援センターともがきさんと、二葉乳児院さんにもご協力をいただきました。

▶ メディア掲載

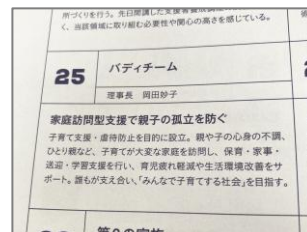
2025年10月25日発売号 ▶

Forbes JAPAN 「『ソーシャルR&D』を実装するNPO50」に選出

ソーシャルセクターにおいて「R&D（Research & Development：研究と開発）」を実践する50団体の1つとして選ばれ、Forbes JAPAN誌に掲載されました。

▼バディチームの調査研究の取組み

- 2015年 里親支援に求められる養育支援とその課題に関する調査研究
- 2020年 民間団体における養育支援訪問事業の実態調査と実践モデル作りに関する調査研究
- 2022年 保育士・教員・学童職員・おでかけひろば職員むけ 里親制度意識調査
- 2023年 家庭訪問型子育て支援事業を行う事業者におけるコーディネーターに対するヒアリング調査
- 2025年 非専門職参画型の里親家庭むけ訪問型支援制度の実施状況調査



▶ 活動説明会

開催
実績

26回／参加65名

月に2～3回のペースで活動説明会を開催しています。
基本的には「子育てパートナー」として活動に参加することを希望する方向けではありますが、それに限らず、児童虐待の背景や家庭訪問型支援の意義などバディチームの取組みについて知りたいという方にも参加をいただいています。

高校生や大学生が卒業論文・自由研究の調査の一環として参加されることも増えています。

未来を担う若い方たちが児童虐待について理解を深め、「自分ごと」として捉えてくださることには大きな意義があると考えています。

子育て・家事・子どもボランティア経験が活かれます！

子育てパートナー募集

活動説明会

参加費
無料

『週1回2時間～OK』『年齢・性別・資格の有無不問』
『直行直帰』『安心の研修制度あり』

家庭訪問スタッフと一緒に活動しませんか？



毎月2～3回 オンラインにて開催中

子育てパートナーとしてバディチームの活動に参加するには



活動説明会
に参加する

場所：オンライン
時間：1時間程度
・団体概要
・子育てパートナーの仕事内容
・児童虐待の背景
・家庭訪問型支援の意義や役割

面接

場所：オンラインまたは事務局

事前研修
(座学3回)

場所：オンラインまたは事務局

現場研修
(1～2回程度)

場所：支援先の各家庭
※先輩子育てパートナーに同行

子育てパートナーとして登録

活動説明会
への参加申込は
こちらから



登録後も事務局が丁寧にフォローいたします。
まずはお気軽に活動説明会にご参加ください！

▶ こども・子育て訪問ネット（ここほネット）

家庭訪問型こども・子育て支援が全国において充実化するため、民間の団体や自治体関係者などが集まり情報交換を行うためのネットワークを結成して活動しています。

世話人団体

認定NPO法人バディチーム
認定NPO法人ホームスタート・ジャパン
NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会



▲ ホームスタート・ジャパン 代表理事 森田圭子さん（左）
日本子どもソーシャルワーク協会 理事長 寺出壽美子さん（右）

▷ 実践者どうしによる交流学習会

家庭訪問型の子育て支援制度、とりわけ2024年に新設された「子育て世帯訪問支援事業」がよりよく実施されるため、全国の実践者どうしの交流と学び合いの場づくり（オンラインイベント）に取り組んでいます。

こども・子育て訪問ネット（ここほネット）
家庭訪問型子育て支援 実践交流学習会 第2回

2026.2.2（月） 16:00 - 18:00

子育て世帯訪問支援事業 多様な実践ケーススタディ

ゲスト

山本 博子 NPO法人Mama's Cafe 理事長（岐阜県）

武樋 保恵 社会福祉法人みその児童福祉会

児童家庭支援センター高知みそのセンター長（高知県）



◀ 2026年2月2日 「子育て世帯訪問支援事業 多様な実践ケーススタディ part.1」

出演

山本博子 NPO法人Mama's Cafe 理事長
武樋保恵 社会福祉法人みその児童福祉会
児童家庭支援センター高知みそのセンター長

▷ こども家庭庁に対する提言

家庭訪問型の子育て支援をめぐる諸課題を整理し、こども家庭庁に対して意見書を提出しました。課題は山積しており、いずれも一朝一夕に解決がなされるものではありませんが、粘り強く、対話を続けていきます。

意見書に掲載された諸課題（一部）

- 地域包括ケアの視点の導入
- 利用料徴収が原因となる利用控えの改善
- 保護者への支援だけでなく、子ども自身への支援の強化・促進
- 訪問支援コーディネーターの配置
- 自治体間格差解消
- 受託事業者を対象とした実態調査 など

令和7年8月7日

内閣府特命担当大臣
（こども政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画、共生・共助）
三原 じゅん子 様

こども家庭庁長官
渡辺 由美子 様

家庭訪問型こども・子育て支援の発展のための検討課題の整理（ディスカッション・ペーパー）

こども・子育て訪問ネット

（世話人）特定非営利活動法人 バディチーム
理事長 岡田 妙子

（世話人）特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン
代表理事 森田 圭子

（世話人）特定非営利活動法人 日本子どもソーシャルワーク協会
理事長 寺出 壽美子

子育て世帯訪問支援事業などの子ども・家庭への訪問支援は、支援が必要な家庭に積極的に支援を届ける事業であり、それは、児童福祉法や児童福祉法施行令に基づき、各都道府県が担っている。

ここほネットからの情報配信をご希望の方はフォームよりご登録ください ▶



▶ ORANGE WALK 2025



「ORANGE WALK」は、11月の児童虐待防止推進月間の期間中、歩くことで児童虐待防止に取り組む団体へ寄付を届けることができるチャリティウォークイベントです。

バディチームは、その寄付先となる22団体のうちの1つに選ばれ、専用のアプリでご参加いただいたみなさんとともに「歩いてこども支援」の1ヶ月を盛り上げました。

バディチームへのご支援の結果

エントリー数：840人

歩数：102,957,694歩

寄付額：150,000円

期間中の11月9日には神楽坂で街歩きイベントも開催。ご寄付への感謝はもちろんですが、多くの人に関心を寄せていただいたことが励みとなりました。

▶ SMBCグループ ライジング基金 さま



居場所とアウトリーチの連携による困難家庭支援のモデル構築事業

さまざまな困難を抱えながらも公的支援につがっていない、「制度の狭間」にある家庭に対する支援活動に対して、ご寄付をいただきました。

寄付額：3,000,000円

※2025年度事業のための資金として、2024年度中にご寄付をいただきました。



とくに公的支援の不足している学齢期の子どもがいる家庭に対する訪問型支援を、子ども食堂など居場所型の支援を行う団体と連携しながら実施しました。学習支援や外出同行などを通じた継続的な関わりを通じて支援者と信頼関係を築き、自身の「生きづらさ」を打ち明けることができたり、「やりたいこと」を言葉にすることができるようになりました。子どもの居場所による支援は増えていますが、そうした場所に出ていくことが難しい親子のもとへ、こちらから継続して訪問することが重要です。

▶ 個人のみなさまからもご支援をいただきました



30代 女性

根本的な解決が難しい場合も多く、難易度の高い領域だと思いますが、支援を必要とされてる方々が1日1日乗り越えていくために必要なサポートだと感じています。



70代 男性

自治体で福祉行政に携わった当時にできなかった事業を推進していると感心したのが寄付のきっかけ。難しい家庭に積極的に関わっていくアプローチに共感し、応援のエールを送らせていただきます。

「みんなで子育てする社会」へ ともに歩むチームに加わってください



参加する

活動説明会に参加する ▶



個人
の方

▶ 子育てパートナーとして活動してみませんか

様々な事情で子育てが大変なご家庭に訪問し、親子に寄り添う活動をしてくださるスタッフを「子育てパートナー」と呼んでいます。年齢・性別を問わず、学生さんから70代の方々が、ご都合に合わせてそれぞれの得意分野で活動に参加しています。資格や経験、得意分野により、複数の活動の場があります。ぜひご参加ください！

企業
の方

▶ 社内や異業種間での学習会等の場にお招きください

社内研修や企業交流イベント等にて、代表・岡田から児童虐待の課題背景やバディチームの取組みなどについてお話をさせていただきます。1人でも多くの方に知っていただくことが「みんなで子育てする社会」につながります！

自治体
の方

支援機関
の方

▶ 「制度の狭間」のケースについてご相談ください

家庭の状況は大変なのに公的支援につながらない、あるいは支援が不足しているといったご家庭へ、訪問型の支援を実施することができます。まずはお気軽にご相談ください！



支援する

▶ 月1,000円からご支援いただけます

月 1,000円 で..

子どもたちが「小さな居場所」
で手作りのあたたかい食事を
食べることができます

月 3,000円 で..

専門領域の研修を開催すること
で、より多くの家庭がより質の
高い支援を受けることが
できます

クレジットカードまたは銀行振込で
ご寄付を受け付けています。

▼お振込の場合の振込先口座
三菱UFJ銀行 広尾支店 普通 1359694
特定非営利活動法人バディチーム

▶ 遺贈寄付・相続寄付もご相談ください

▶ モノの寄付でも応援いただけます

ブックオフコーポレーション株式会社の運営する
「キモチと。」にて、モノでの寄付も受け付けています。



寄付ページ ▲

認定NPO法人であるバディチームへご寄付をいただいた
個人・法人のみなさんは、税制上の優遇措置を受けることができます。
(所得税・住民税・相続税・法人税)

税制優遇について ▶



科目		金額
I 経常収益	受取会費	134,000
	受取寄附金	11,961,504
	受取助成金等	24,984,000
	事業収益	70,274,002
	受取利息／雑収入	101,835
経常収益 計		107,455,341
II 経常費用	1 事業費	
	人件費（法定福利費含む）	60,722,804
	旅費交通費	3,862,835
	通信費	2,302,021
	外注費	6,431,100
	食材料費	402,388
	リース料	181,946
	支払報酬料	5,139,135
	消耗品費	2,038,587
	会議費	127,636
	交際費	39,511
	水道光熱費	258,655
	賃借料	13,985
	地代家賃	5,258,789
	支払手数料	1,812,452
	租税公課	1,955,800
	研修費	14,000
	保険料	126,651
	印刷製本費	305,740
	荷造運賃	7,949
	雑費／その他経費	172,955
	事業費 計	91,174,939
	2 管理費	
	人件費（法定福利費含む）	853,849
	その他経費	2,320,220
	管理費 計	3,174,069
経常費用 計		94,349,008
税引前当期正味財産増減額		13,106,333
法人税、住民税及び事業税		82,690
当期正味財産増減額		13,023,643
前期繰越正味財産額		11,742,136
次期繰越正味財産額		24,765,779

受取寄附金には次年度事業に対する支援金が含まれています。

受取助成金等には、(公財)日本財団、(独)福祉医療機構、(公財)CBGMこども財団、(公財)東京都福祉保健財団からの助成金が含まれています。

事業収益には主に、都内14の自治体などから受託する要支援家庭や里親家庭むけの訪問型支援(p6-8参照)の受託事業収益が計上されています。

管理費のその他経費には、顧問税理士に対する報酬の他、事務所家賃の更新料についての繰延資産償却費などが含まれています。

当期正味財産増減額には、次年度事業に対する支援金の金額から、その受入れにかかる経費を差引いた金額が含まれています。

▶ 行政との協働事業

2007年 12月	NPO法人 設立
2008年 4月	養育困難家庭におけるホームヘルプサービス 受託
2010年 4月	養育支援訪問事業 都内6区 受託
2012年 9月	東京都里親支援機関事業（育児家事援助者派遣） 受託
2017年 4月	養育支援訪問事業 都内13区 受託
2017年 7月	江戸川区「食事支援ボランティア派遣事業」（おうち食堂） 受託
2019年 4月	江戸川区「子どもと家庭のおとなりさん事業」 受託
2019年 5月	世田谷区「食の支援サポーター派遣事業」（おうちDE ぽかぽかクッキング） 受託
2020年 4月	世田谷区「里親支援のための育児家事援助者派遣事業」 受託
2020年 10月	江戸川区「さとおや・おたすけ事業」 受託
2024年 6月	新宿区「トワイライトステイ事業」 受託

▶ 民間助成金事業・表彰

2009年	全国社会福祉協議会 里親支援モデル事業
2010年	日本財団 里親家庭ファミリーサポート事業
2011年	日本財団 被災地応援子育て支援事業
2015年	厚生労働省 里親支援に求められる養育支援とその課題に関する調査研究事業
2015年	東京都福祉保健財団 養子縁組家庭の子育て支援と仕組みづくり事業
2017年	東京都福祉保健財団 社会で子育て！社会的養護が必要な子どもたちへの子育て支援事業
2020年	日本社会福祉弘済会 民間団体における養育支援訪問事業の実態調査と実践モデル作りに関する調査研究事業
2022年	日本財団 子育て家庭に対する訪問型養育支援の強化事業
2022年	NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド 里親家庭の親子を地域で支えるための保育士・教員・学童職員むけ啓発プロジェクト
2023年	社会貢献支援財団 社会貢献者表彰
2024年	日本財団 里親子に対する理解促進および訪問型支援の強化事業
2024年	こどもの未来応援基金 アウトリーチ連動型 親子に寄り添う小さな居場所事業
2024年	CBGMこども財団 家庭訪問型の子どもの自立支援事業
2024年	東京都福祉保健財団 居場所型との連携による家庭訪問型食支援等の協働実践事業
2025年	日本財団 訪問型養育支援の量的拡充と研修カリキュラムの開発事業



2025

Annual Report

年次報告書



認定NPO法人
バディチーム

